

本願力

横浜別院だより



【同朋の会研修旅行 横須賀・三浦】

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
横浜市港南区日野一十一-八

FAXTEL
(045) 841-1343
(045) 841-1342
(http://www.yokohama-ootani.com)

雑感 五

輪番 坂田 智亮

近年、梅雨入ると残念なことに必ずと言ってよいほど、どこかで大雨による災害が発生する。これは自然の摂理によるもので如何ともしがたい。ジタバタせずに、驕らず、じっと静かに身を細めて過ごすしかない。

さて、先般、別院ご門徒さんから聞き及んで、日本橋高島屋へ堀文子展に出かけた。芸術、とりわけ絵画の魅力や価値と言ったものに縁遠く過ぎてきた私だが、今年二月、一〇〇歳で亡くなりになるまで、ひたすら描き続けられたという絵画の一つ一つに、ご本人の想いを聞き及ぶには到底至らないが、精神を集中したその意志と継続力には感服させられる。「どれだけの不思議なものがこの世にあるのか、地面の中や水の中にどんな生き物がいるのか知りたくまりました」こんな旺盛な好奇心は、どこから生み出されてくるのだろうか？不思議とは、「普通では考えも想像もできないこと説明のつかないこと、人間の理解・解釈を超え

ていること、人知の遠く及ばないこと」で、また、謎、神秘、ミステリーなどと訳することもある。私共真宗門徒は、この「不思議」と言う言葉を大切なキーワードにして、いのちの存在の意味を訊ねてきた。どんな時代が到来しようとも生死流転の現実には普遍であり世の真理である。ゆえに、生かされているこの身も、いのちの営みも全く不思議なのである。すべてが不思議であるにも関わらず、自己に執してやまない私共は、知性・理性によって解釈・解明・理解し、自らの意志や行動をも制御できるかの如く考えてきたのかもしれない。近代化と言われる明治以降の発展史は、人間存在の豊かさを科学技術の進歩にのみに傾注して凝縮したと言っても過言ではない。言わば、不思議を不思議と感覚することが失われていく営みの中で、今、一体何が起きているのであろうか？人生一〇〇年時代を迎えると言い、宇宙旅行を夢見て彷徨い、健康長寿を願って日々暮らす社会は、未成熟で何処までも行ってもどこにもたどり着かないし、不老不死になる道理も存在しない。「二〇四五年シンギュラリティ」人間のぬくもりと輝きが危ない。

誓願不思議・仏法不思議・仏智不思議の教説を証していく道が開かれていることに気付くことは容易ならぬことであるか？生老病死の事実もすべて不思議である。その現実と間違いない見いだされてくる南無阿弥陀仏の道を聞き訊ねていきたいと思う。

如来の誓願は不思議にましますゆえに、仏と仏との御はからいなり。
凡夫のはからいにあらず。

(御消息集)



橋本正博責任役員慰労会（五月八日）

二〇一九年三月三十一日付で責任役員を退任された橋本正博氏の慰労会がホテルニューグランドで開催された。東京教務所長、神奈川四ヶ組正副組長、院議会議員、別院監事、神奈川教化センター運営委員等、役職者の面々が出席し、長年のご苦勞を労った。

橋本正博氏は、二〇一一年十二月に就任し、約八年に亘り別院を支えていただいた。在職中には、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要、神奈川教化センター設立、大谷幼稚園の学校法人化等、大変ご尽力いただいた。

慰労会は、輪番挨拶から始まり、橋本氏への記念品贈呈が行われた。その後、橋本氏から感慨深い挨拶をいただき、岡本証寿東京教務所長から乾杯の発声をいただいた。会場は、終始和やかな雰囲気になれて、閉会にあたり、後任の責任役員である渡辺賢氏より挨拶があり、温かく締めくくられました。

（文責家本）



→ 橋本正博氏

同朋の会研修旅行

横須賀・三浦（五月十五日）

今年は、横須賀・三浦方面へ研修旅行を企画しました。天気は快晴、参加者十七名とまずは横須賀市にある西来寺に参拝しました。大塚充住職から、西来寺の由緒沿革をお話いただきました。元々は天台宗の寺院でしたが、親鸞聖人の御教化により浄土真宗に改宗され、今日に至ることでした。天台宗の頃から数えると約一二〇〇年という大変古い歴史のある寺院でした。

午後からは三浦市にある来福寺を参拝しました。和田廣樹住職から、来福寺の由緒沿革をお話いただきました。数々の寺宝を拝見させていただきました。特に和田義盛の木像を拝見した時に、歴史を感じる造りでした。和田義盛は鎌倉幕府の侍所別当として権威をふるった武將で、来福寺の建立を發願された方です。鎌倉



→ 来福寺



→ 西来寺

時代から約八〇〇年の歴史ある寺院でした。来福寺参拝の後、横須賀市に戻り、横須賀軍港巡りを行いました。平日にも関わらず、大勢の乗客があり、関心の高さが伺えました。十一月には二泊三の九州研修を計画しています。（文責家本）

永代経法要（五月二十八日・二十九日）

今年は二日間、九〇名の方に参詣をいただきました。勤行の後、講師である海法龍先生のお話がありました。永代にわたってお経が読誦され続けられているそのお心を、現代社会の諸問題を通してお話いただきました。



おみがき会（六月十五日）

ご門徒の皆さんに年二回、本堂の仏具のおみがきをしていただいています。ピカール（真鍮研磨剤）、ぼろ着れやタワシ、歯ブラシ、新聞紙などを使って、一つひとつ丁寧に磨いていただきました。来月にはきれいな莊嚴でお盆をお迎えします。



【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうごき】

第三十回神奈川ブロック聖典学習会

講師 三木彰円師（大谷大学教授）

今年度三回目の神奈川ブロック聖典学習会が五月十七日に横浜別院で開催されました。講師である三木彰円先生には、「一念多念文意」を四年間に亘り講義いただき、難波別院発行の『テキスト一念多念文意』を使用し、少しづつ丁寧に教えていただきましたが、今回で最終回となりました。講義冒頭では、『法事讃』（善導）に、「致使凡夫念即生」という言葉があり、一念多念文意で引かれて部分からお話が始められました。三木先生は、「日常の幸せと念仏の幸せは重なるとは限らない。念仏して、ただ念仏するという私のあり方が阿弥陀仏に救われているという事。この事が即（ただちに）」ということである。この今という時の積み重ねが往生である。」と、「念即



→ 三木彰円 先生

生」についてお話いただきました。また二河白道のお話をいただきました。午前午後三時間に亘る講義が終了し、全十六回の講義が終わりました。次年度から学習するお聖教が変わります。（文責家本）

横浜組 声明儀式研修会

講師 管生考純師（京都教区光明寺住職）

横浜組声明儀式研修会が五月二十日に横浜別院で開催されました。講師は、管生考純師でした。講題「真宗大谷派の儀式概説」として、午前は声明儀式の心得のお話いただきました。午後からは、本堂に場所を変えて、作法実践として、鳴り物（平キン）の打ち方等を教えていただきました。

参加者からは、普段おこなっているキン作法とどこが違っているのか、細かく確認している姿が印象的でした。また、報恩講結願日中法要の次第に沿って、伽陀の発声、登高座における諸作法などの講習を行ないました。（文責家本）



→ 研修会の様子

「神奈川四ヶ組行事予定表」

《神奈川四ヶ組》

【神奈川連合組子ども会夏のつどい】

【日時】八月十九日（月）～二十日（火）

【開会】十九日・十三時三十分、

【閉会】二十日・十四時

【会場】本願寺横浜別院

※詳細については称名寺（本多暁委員長）までお尋ね下さい。

TEL 〇四四・五一・一六七四

【神奈川連合組門徒会総会】

【日時】十月八日（火）十五時十五分、

【落語】三遊亭右左喜 師匠

【会場】本願寺横浜別院

※詳細については後日お知らせします。

《湘南組》

【湘南組聞法集会二〇一九】

【日時】十月二十八日（月）

十四時～十六時三十分

【講師】釈徹宗 師

（浄土真宗本願寺派如来寺住職

・相愛大学人文学部教授）

【会場】グランドホテル神奈中平塚

【参加費】無料

※詳細については後日お知らせします。

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 —

2019年7月～8月

～どなたもご自由にお参りください～

盂蘭盆会法要 午後1時30分より

7月13日（土）・14日（日）

【法話】松林 了 師

（岡崎教区第17組 西岸寺住職）

真宗門徒にとって「お盆」とは、亡き人から案じられている我が身であったことに目覚め、あらためて、人間として賜ったいのちや生きる意味を問う「聞法の機縁」といっていただいております。皆様とご一緒に、お盆を仏法聴聞の機会として、亡き人々からの尊い呼びかけに応えていきたいと存じます。どうぞご参詣ください。

定例法話 午後1時30分より

7月9日（火）川崎組 善能寺 今井 亮顕 師

7月28日（日）別院 輪 番 坂田 智亮 師

8月9日（金）三浦組 来福寺 和田 廣樹 師

8月28日（水）別院 輪 番 坂田 智亮 師

横浜別院同朋の会

8月18日（日）午後1時30分より

【真宗大谷派近代史学習会】

戦後から現代に至るまでの真宗大谷派近代の歩みについて、共に理解を深める機会となれば幸いです。お気軽にご参加下さい。

《暁天講座のご案内》

【日時】8月24日（土）

午前6時30分～8時15分

【講師】山本 伸裕 氏（東京医療保険大学准教授）

【講題】「日本人の宗教心」

【参加費】無料 ※事前申し込みは不要です。

・・・・・・・・・・・・・・・・

【日時】8月25日（日）

午前6時30分～8時15分

【講師】酒井 義一 師（東京5組存明寺住職）

【講題】「人間を忘れてはいないか」

- 親鸞と考えるハンセン病問題 -

【参加費】無料 ※事前申し込みは不要です。

両日とも、講座終了後に軽食（パン・豆乳）をお配りします。ぜひ参加ください。

特別公開講演会

9月11日（水）

午後1時30分～4時（受付1時より）

【講師】徳田 靖之 氏

（ハンセン病訴訟西日本弁護士共同代表）

【演題】「ハンセン病問題と私たちの責任」

【会場】本願寺横浜別院・神奈川教化センター

【参加費】1,000円

※参加申込は不要です。直接会場にお越し下さい。

編集後記

長かったゴールデンウィークが終わり、梅雨に入り、初夏の季節がやってきました。五月、六月のわすが二ヶ月でも色々な行事がありました。特に「おみがき会」に参加してくださったご門徒の皆さんには頭が下がる思いでした。当日は、天気予報どおりに、朝から大雨で風も強く、「今日は参加者が少ないかなあ」と漠然と思っていました。それが、始まる三十分も前から門徒さんが集まり始め、開始時間には二十名もの方に集まっていたことができました。そして、丁寧に一生懸命磨いていた姿を見て、先ほど自分抱いていた気持ちはいささか違っていたと、申し訳ない気持ちになりました。七月の盂蘭盆会法要にたくさんのお参詣をお待ちしております。

（家本）

